

# 第6回 「地方都市の魅力向上－立地適正化計画」講習会 開催報告

日時：令和4年7月22日（金）16：45～19：35

場所：Zoomミーティング

講師：外尾一則（佐賀大学名誉教授，北九州市立大学国際環境工学部建築デザイン学科研究協力者）

参加者：唐津市都市計画課3名，松野尾仁美（九州産業大学・准教授），永家忠司（大分高専・准教授），猪八重拓郎（佐賀大学・准教授）

<報告>

第6回講習会においては，集約型都市構造実現のための良質な都市及び市街地形成の必要性と，スマートシュリンクに向けた市街地整備事業の手法や制度の解説がなされました。また，QOLパフォーマンスを用いたスマートシュリンクの地区選定の解説がなされました。その他，スマートシュリンクを考慮した地方都市開発のガイドライン構築や，都市のスポンジ化の課題とその対応などが紹介され，非集積エリアのあるべき将来像をトータルに提示する重要性についてお話がありました。

文責：松野尾仁美（九州産業大学 建築都市工学部，E-mail: matunoo@ip.kyusan-u.ac.jp）

# **(第6回)**

## **スマートシュリンクと都市のスポンジ化の整合性**

### **1. 都市構造の集約化と郊外市街地のスマートシュリンクの検討**

- 市街地整備施策の考え方、コンセプトの再構築
- 重点的に市街地を整備・改善すべき区域の明示と投資施策の集中
- 郊外市街地のスマートシュリンク
- 郊外市街地のスマートシュリンクに向けた手法・制度のあり方

### **2. コンパクト化を導くスマートシュリンク戦略(名古屋大学林教授)**

- コンパクト化を導くスマートシュリンク戦略
- スマートシュリンクの地区選定の方法
- クオリティ街区ストック(質の高い街区)

### **3. 市街地のスマートシュリンクを考慮した地方都市郊外開発のガイドラインの構築 (佐賀大学)**

- 郊外スプロール市街地の持続性の課題
- 持続的又はスマートシュリンクの協働街づくり支援の方向性

## 4. 都市のスポンジ化(饗庭教授)

- 現実的なシナリオ

## 5. 都市のスポンジ化への対応方針

- スポンジ化がもたらす課題
- 対策の視点と留意点
- 施策の具体的方向性
- 更なる検討課題

## 6. コンパクトシティの形成が目指すべき都市像のトータルな提示

### ■資料作成者、連絡先

- 外尾一則; 佐賀大学名誉教授、北九州市立大学国際環境工学部建築デザイン学科研究協力者
- メールアドレス; [k-hokao@kitakyu-u.ac.jp](mailto:k-hokao@kitakyu-u.ac.jp)

# (参考) 都市の縮退・退化, スポンジ化に伴う人の行動に着目した事例

人口減少による都市の縮退・退化あるいはスポンジ化という都市構造変化の局面に対しては, 市民や住民の行動的対応への影響, 住宅地選択の意思決定など人の行動という観点が重要になると考えられる。

【事例A】都市形態の縮退に対する住民の都市サービス利用における適応行動の可能性に関する研究

【事例B】住宅地の選択に対して情報を用いて市民の行動に介入する政策手法の提示

【事例A】都市における「退化」についての概念を広く普及させるため, 都市構造の経年的変遷に着目した地域類型を作成, さらに地域における居住者のトリップに着目して, 都市における「退化」の性能を試算

1. 経年変化から見る都市縮退の実態分析

- 生活圏に関する主成分分析
- 生活圏に関する類型化

2. 居住者のトリップから見た退化性能の検討

## 示唆的な結果

- 一般的にネガティブな事象として認識されやすい縮退について, 一部地域ではトリップ数が維持・向上している可能性
- 人口減少に合わせて都市構造をダウンサイジングすることによって居住者はその地での活動量を維持・向上させており, ダウンサイジングにより今後もその都市構造が持続的に存在できる可能性
- 今後の都市の形態を検討する上で, 縮退や退化が 1 つの選択肢として存在する可能性

(出典) 森 英高・川崎 薫・谷口 守「都市構造の変遷にみる退化性能の検討-居住者のトリップに着目して-」土木学会論文集D3(土木計画学)Vol.74, No.5(土木計画学研究・論文集第35巻)2018. (※出典をもとに作成)

## 【事例B】都市のスポンジ化対策; バイアスへの介入策 (ナッジ的手法)

### ステップ1 現状把握と政策のアイデア

- ①現状を把握する (基礎調査結果、その他の分析ツール)
- ②世帯数と人口から J、I、K の居住地を見つける
- ③「K の居住地」を「J の居住地」にするためにどうするか決める (政策のアイデア、目指す方向性)

### ステップ2 スポンジ化進行のバイアスと不合理な行動

政策のターゲット (誰に介入するか) を決める

- ④バイアスを抽出する (ブレインストーミング、既存アンケート)
- ⑤バイアスによって行っている不合理な選択や行動を推測する
- ⑥将来に発生する問題を整理する

### ステップ3 豊かな暮らしへの誘導

- ⑦将来あるべき暮らし、正しい情報を考える
- ⑧介入の手段とあり方を議論する
- ⑨介入の組み合わせ方を議論する

### ステップ4 実現可能性と効果検証にむけて

- ⑩社会実験で実施可能性と効果を検討する

(出典) 「都市のスポンジ化対策検討について~豊かな暮らしをいかにして実現するか~」香川県土木部都市計画課都市のスポンジ化対策検討チーム 令和2年3月

作成; 永家 (大分高専准教授)